

「平成 27 年度水産試験研究プラザ」の開催

平成 27 年 11 月 24 日北海道原子力環境センター（以下「原環センター」とする）、12 月 8 日石狩市役所厚田支所で「平成 27 年度水産試験研究プラザ（以下「プラザ」とする）」を開催しました。当日は古宇郡漁業協同組合（以下「漁協」とする）、岩内郡漁協、寿都町漁協、島牧漁協、石狩湾漁協及び北海道漁業協同組合連合会の漁業関係者や市町村役場及び北海道の水産担当職員の方々ら 91 名（原環センター 60 名、石狩 31 名）に参加いただきました。事前に漁協からいただいた要望に応じて、二枚貝養殖の新たな取り組み、品質向上に向けたナマコの原料選別、磯焼け研究、石狩湾の漁海況とニシン来遊、シャコの生態と資源状況など調査研究の成果を紹介しました。

意見交換では、バカガイ養殖の可能性、磯焼けと栄養塩（海の栄養）の関係、マフグの漁獲増や稚ナマコの放流場所など活発な質疑がありましたので、そのひとつを紹介します。石狩湾漁協の 30 代の漁業者から、10 年後のニシンの漁獲量について質問がありました。ニシンの資源量は平成 18 年、

21 年、24 年生まれが多く、3 年飛びで資源の多い年が続いています。このことから、ニシンは 3 歳で大量に産卵しているようです。平成 27 年生まれの資源量が多ければ、10 年後もニシン漁は期待できます。この資源量の多寡は、来年秋のハタハタ漁などで混獲されるニシン稚魚の情報が重要であり、中央水産試験場に連絡いただけますと、ニシン漁の長期的展望について説明できるようになると思います。

参加された方々に記入していただいたアンケートでは、毎年開催して欲しいという要望や中央水産試験場でプラザを開催して欲しいというご意見も賜っています。平成 28 年 3 月には小樽地区漁協青年部連絡協議会が主催する漁協青年部大会が中央水産試験場で開催されます。大会では話題提供として「石狩湾と後志南部の海況について」を紹介させていただきます。これを機会に、中央水産試験場でプラザの開催も検討したいと思います。

（楠田 聡 水産研究本部企画調整部）



本部長の挨拶（上：原環センター）と発表の様子（下：石狩）



意見交換の様子（上：原環センター、下：石狩）

日本海南部に新たな二枚貝養殖を！

資源増殖部 宮園 章

主な内容

- H27年からスタートした水試の新プロジェクトを紹介します。
- 道水産林務部の「日本海漁業振興基本方針」に沿った取組みです。
- 漁港を使った二枚貝養殖の技術開発に取り組めます。
- 漁業者に魅力のある養殖事業の提案を目指しています。

話のポイント



- 日本海南部（檜山・後志）の漁港を使った新たな二枚貝養殖事業の普及・展開を目指します。
- 養殖・漁港診断技術と同時に、担い手となる漁業者を発掘し、共にビジネスモデルを検討したいと考えています。
- この取り組みでは「**担い手漁業者のネットワーク構築**」がカギとなります。
- ビジネス規模としては小さい事業ですが、漁業者ネットワークとサポーターシェフのネットワークをうまく繋いで、儲かる事業を実現しましょう！！



サポーターシェフのネットワークとは？ 私たちの取り組みに賛同し、協力を約束してくれた札幌の料理店とシェフたち。現在、26店がリストアップされています。潜在的にはまだ増やす事は可能です。

皆様へお願い

今日の話に興味がある方、おもしろそうだと感じた方は是非とも、**担い手漁業者のネットワーク**に参加してください。

桁曳き網ナマコの原料選別について

加工利用部 菅原 玲

主な内容

- 傷ナマコの実態調査と品質向上に関する試験を行いました。
- その結果、傷の種類やその割合には地域による差がありました。
- 次に、傷ナマコからボイル塩蔵品を製造し、加工・流通業者に評価を依頼した結果、約80%は品質が劣っていました。
- このため、ボイル塩蔵品の品質向上には、水揚げ時に傷ナマコをしっかりと選別することが重要であることがわかりました。
- また、水揚げ後のナマコの保管では冷却が必要ですが、真水氷の使用は避けた方が良かったことがわかりました。

話のポイント

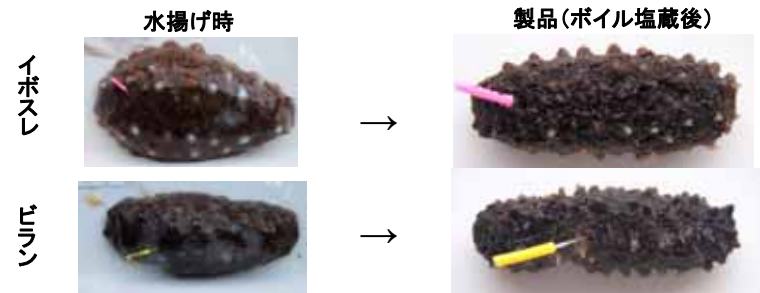


写真1 傷ナマコの水揚げ時とボイル塩蔵後(製品)

- ナマコの水揚げ時に見られる傷は、ボイル塩蔵品を製造した後も、ほとんどが傷跡となって残ることがわかりました（写真1）。



→ 写真2 海水(21~23℃)で保管されたナマコ

- 漁獲されたナマコを冷却（10℃以下）せずに海水（21~23℃）で4時間保管すると、内臓などの内容物が多く吐き出されていました（写真2）。

後志の藻場を守れ！ 環境センターが取り組む最新の磯焼け研究

北海道原子力環境センター 水産研究科 栗林 貴範

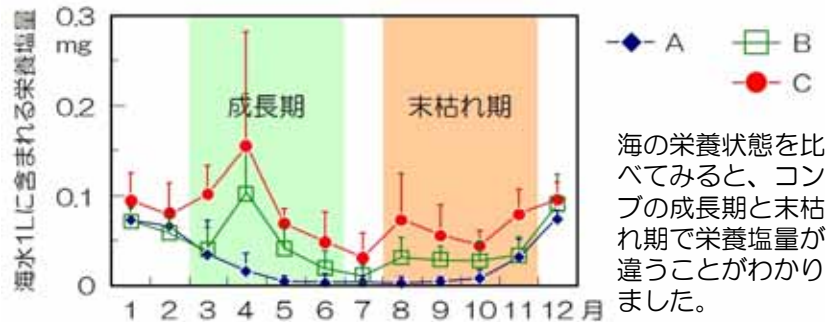
主な内容

磯焼けは、後志の海でも大変深刻な問題です。プラザでは、磯焼け要因の一つである海の肥料「栄養塩」不足に注目し、海の栄養塩とコンブの関係についてお話します。「こっちはコンブだめになっちゃったけど、あっちは生えているんだよね、どうして？」「施肥すれば生えるの？」後志の藻場を守るべく、環境センターが取り組む最新の磯焼け研究について、わかりやすくお話します。

話のポイント



後志の海では、Aのように磯焼けが著しいです。しかし、実際に海岸を歩くと、所々には昔のようにコンブが生えている場所もあります（B、C）。この違いはどうしてなのでしょう？



皆様に質問

- ・今年のコンブや他の海藻類の繁茂状況はいかがでしたか？
- ・なぜ磯焼けが起こったと思いますか？

石狩湾の漁海況・ニシン来遊の見通し

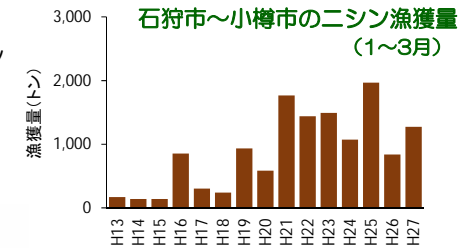
資源管理部 星野 昇

主な内容

今年度もニシン漁のシーズンが近づいてきました。今季の漁模様は果たして？ 水温の影響を受けて漁場や盛漁期が毎年大きく変わるニシン。石狩湾沿岸の海況とどのように関わっているのか、これまでの調査で得られたデータから考えます。

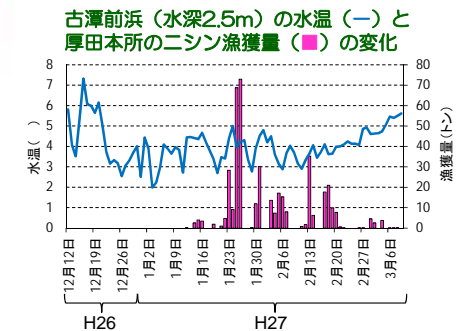
話のポイント

H21年以降、石狩湾系ニシンの好漁が続いています。昨冬も小樽～石狩を中心に大型ニシンが好漁となりました。



沖合での水試調査船によるトロール調査は来遊予測や資源管理に必要な情報を得るために欠かせません。

資源が豊富にあっても、前浜で大漁となるかどうか分からないのがニシンです。石狩湾沿岸の水温分布はニシンだけでなく他種の産卵親魚にも大きな影響を及ぼしています。



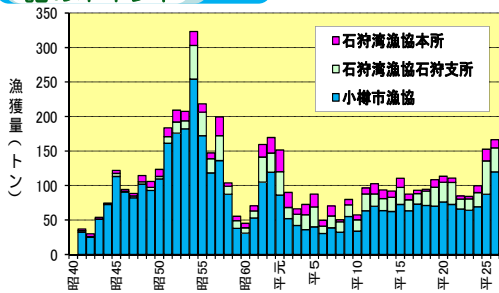
シャコの生態と資源について

資源管理部 本間 隆之

主な内容

石狩湾のシャコの漁獲量は今まで増減を繰り返してきましたが、近年、再び増えてきています。現在の石狩湾のシャコ資源の状況について、水産試験場で実施している調査結果と今まで行われてきた試験研究の結果とともに説明します。

話のポイント



石狩湾海域におけるシャコの漁獲量の推移

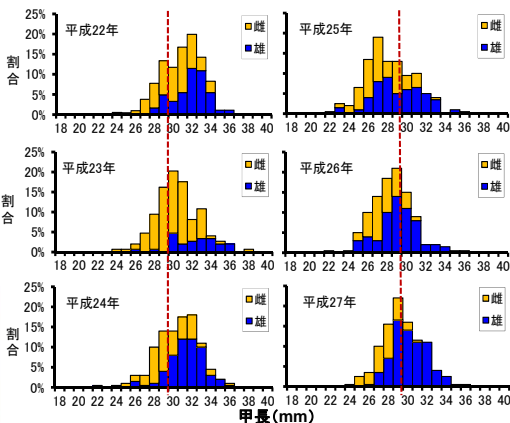
石狩湾のシャコの漁獲量は平成24年から増加し、平成26年は166トンでした。石狩湾漁協の漁獲量は全体の2~4割を占めています。なお本所（厚田）は1割前後を占めています。

※漁獲量は販売実績を基に集計。実際の水揚げ量と一致しない部分があると思われます。

甲長30mm未満のシャコが多く出現すると、その後のシャコの漁獲量が安定する傾向があります。なお、平成25年に30mm未満のシャコが多く出現しています。



シャコの甲長(頭胸甲長)



石狩市厚田区で測定したシャコの甲長の推移(6月)

アンケートにご協力下さい。
アンケートは会場入り口の回収箱にお入れ下さい。



平成27年度 水産試験研究プラザ（石狩・後志管内）要旨集
発行 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部
企画・編集 水産研究本部企画調整部企画課
〒046-8555 余市郡余市町浜中町238番地
TEL : 0135-23-8705 / FAX : 0135-23-8720

